

## 令和4年8月豪雨の対応と 日本海沿岸東北自動車道について

国土交通省 北陸地方整備局  
羽越河川国道事務所長 澤山 雅則



私たち羽越河川国道事務所は、昭和42年8月28日の羽越水害を契機に荒川の災害復旧工事および改修工事、並びに国道113号の災害復旧工事および改修工事の施工を担当する

ため、昭和42年10月1日に北陸地方建設局羽越工事事務所として設置されました。

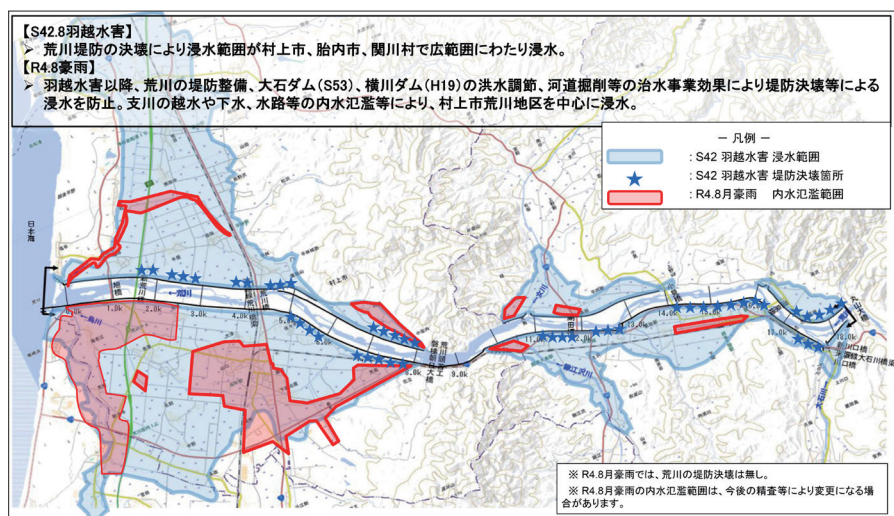
事務所の所掌事務としては、荒川（約19km）と昭和53年に完成した大

石ダム、平成20年に完成した横川ダムの管理、国道7号（約59km）の改修・維持管理、国道113号の改修、日本海沿岸東北自動車道（荒川胎内IC～朝日まほろばIC間21km）の維持・管理を担当しています。

現在の主要事業として、昨年の豪雨で被災した荒川の災害復旧工事を進めるとともに国道7号朝日温海道路の事業を進めています。

昨今、気象変動による局地的な降雨が多く発生しており、荒川流域においても昨年の8月3日、4日にかけて、線状降水帯を伴う豪雨に見舞われました。荒川流域内では記録の短時間大雨情報が16回発表され、上関雨量観測所では時間雨量161mmを観測しています。この豪雨を受け、荒川では昭和42年の羽越水害に匹敵する出水となりました。荒川本川では破堤、越水といった被害はありませんでしたが、低水護岸等の被災が3箇所を確認され災害復旧工事を実施しています。

荒川流域の浸水被害軽減に向け、流域内では地域住民、自治体などあらゆる関係者が協働し流域全体で水害を軽減させる対策について、荒川水系流域治水プロジェクトによる取り組みを推進してきたところですが、この豪雨では、支川の氾濫等により



昭和42年の羽越水害と令和4年8月洪水での浸水範囲の比較





葛籠山地先における被災状況

村上市、関川村に甚大な被害をもたらしたことを踏まえ、今後も起こりうる洪水に対する被害軽減対策に向けた取り組みを、令和4年12月に新たな荒川水系流域治水プロジェクトを策定し公表しました。

道路事業においては、「日本海国土軸」構想で重要な位置づけがなされています。この構想は、北海道から日本海沿岸地域を経て九州北部に至る日本海側に、高速交通・通信体系等を整備することにより、社会、経済、

生活、文化等の諸機能をネットワーク化し、新たな国土の主軸を形成しようとするものです。

平成23年3月に発生した東日本大震災によって、国全体としてのリスク分散やバックアップ体制の必要性が浮き彫りとなり、「災害に強い多軸型国土づくり」の観点からも、日本海国土軸の形成につながる道路網等の早急な整備が求められています。

この日本海国土軸の一部をかたちづくる日本海沿岸東北自動車道は新

潟から青森まで日本海側の沿線都市をつなぐ高規格道路として計画されており、新潟山形県境区間では国道7号朝日温海道路として、災害時の緊急輸送路の確保、緊急医療施設への輸送時間短縮、日本海側の交流・連携強化を目的とし、平成25年度より新潟国道事務所とともに事業を進めてきました。

管内の状況を見れば、山間部を通過する現在の国道7号は急カーブ区間や急勾配があり、大型車や歩行者







の通行にも注意することが多く、特に冬期は運転に気を使う道路となっています。このため、朝日温海道路が整備されることで、カーブや勾配の変化が少なく道路幅も確保されるため、市街地への通勤や買物など、毎日の運転が快適になります。

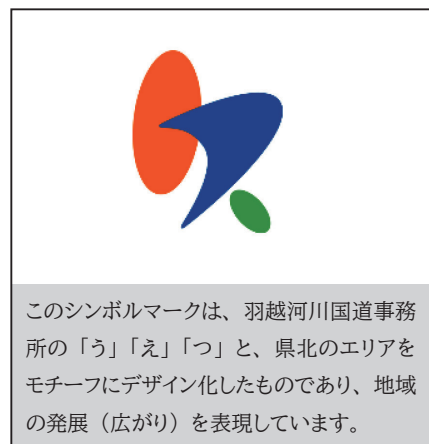
また、朝日温海道路周辺地域は、豊富な観光資源を持ちながらも交通利便性が低く、来訪しにくい状況です。その一方、「朝日みどりの里」や「あつみ温泉」では、日本海沿岸東北自動車道の部分開通後に観光客が約8～9万人も増加していることから、高速道路ネットワークの形成によって観光周遊の選択肢が広がるため、地域産業にとっては活性化の機会となります。

さらに、国道7号では様々な資源や物が流通していますが、大雨・土砂崩れや越波等の災害、雪による立ち往生車両で通行止めが発生した際は、近くに代替路が無いことから物流やライフラインの供給に深刻な影響を与えてきました。(過去10年間

で30回発生)

そこで、災害に強い安定した輸送ルートができることで、流通時間の短縮によるコスト縮減のほか、輸送中の破損や傷みが懸念される地域の特産品などを確実に搬送できます。

その他、村上市と鶴岡市の県境部には、救命救急センターまでの搬送に1時間以上かかるエリアが多く分布していますが、朝日温海道路の整備により、新たに4,000人が1時間搬送圏域に入るほか、急なカーブが



このシンボルマークは、羽越河川国道事務所の「う」「え」「つ」と、県北のエリアをモチーフにデザイン化したものであり、地域の発展（広がり）を表現しています。

少なく救急車内での揺れが少ないため応急処置が安定することは患者の負担軽減につながり、救命率の向上が期待されます。

このように、地域の利便性を高め、多方面から振興を支える朝日温海道路ですが、現在は当事務所管内では(仮称)9号トンネル、(仮称)11号トンネルを施工しており、2ヶ月毎にトンネル工事に興味のある方を募って見学会を行います。

